

## Ⅱ みんなの幸せ

### 1 障害があっても

#### (1) みんな同じ仲間

わたしたちのまちには、子どもからお年寄りまでいろいろな人たちが暮らしています。そしてその中には、目や耳、手や足など身体に障害のある人もいます。身体のほかに、知的な障害、こころの病気による障害がある場合もあります。

川崎市の人口はおよそ154万人ですが、その中には、先程挙げたような障害のある人がおよそ60,000人います。また、この中のおよそ5,000人は、みなさんと同じ18歳未満の子どもです。

障害は、生まれる前や生まれてからの病気やけが、あるいは交通事故などいろいろな原因によって起きます。障害のある人もない人も、みんな同じ仲間として、おたがいに支え合って暮らしていくことが大切です。

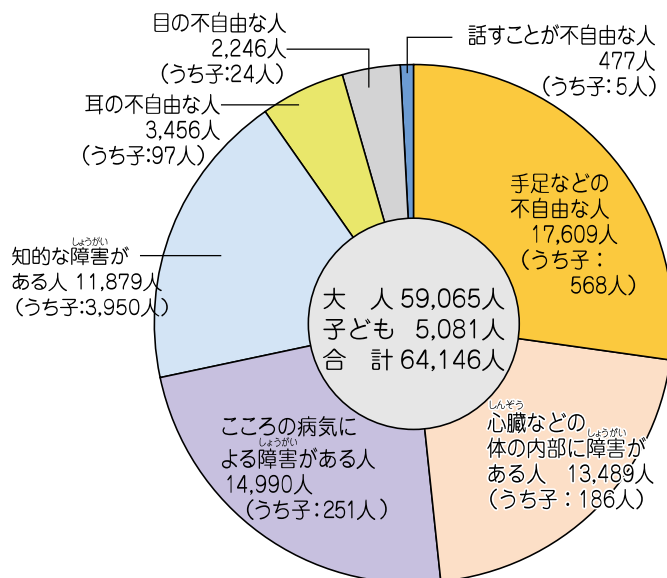
#### (2) 障害のある人への思いやりの気持ちを持つために

障害のある人は、生活の様々な場面で不利益を受け、困ってしまうことがあります。そのようなとき、わたしたちは、それぞれの障害にあった手助けをしたり、思いやりを持ったりすることが大切です。

国では、障害のある人への思いやりの気持ちをみんなが持つことで、障害のある人もない人も一緒に当たり前の生活ができる社会を

障害のある人の数

(令和4(2022)年3月末現在)



つくることを目指して、平成28(2016)年4月から「障害者差別解消法」という法律がはじまりました。

この法律では、役所や会社・お店などに対し、障害のある方への「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。不当な差別的取扱いとは、障害を理由として、お店に入るのを拒否したり、対応を後回しにしたりすることです。合理的配慮の提供とは、ゆっくりはっきりと話したり、写真や絵などを使って分かりやすく説明したりするなど、負担とならない範囲で手助けを行うことです。

では、学校生活の中ではどのような配慮ができるでしょうか。

#### (学校での合理的配慮の例)

##### 1 肢体不自由(手や足などの障害)の方

➡ 移動しやすいように、学校内の出入口に物を置かないようにする。

##### 2 聴覚障害の方

➡ 話し言葉だけでなく、メモや身振り手振りを使って伝える。

### 考えてみよう！

上の例のほかに、障害のある方がどのようなことで困っているのか、どのような配慮ができるのかを考えてみましょう。

みなさん一人一人が「自分に障害があったらどのように助けてほしいだろう」と想像して、困っている人がいたらみんなで支えていく思いやりの気持ちを持つことが、何より大切です。

### (3) 身近なところにある思いやりの輪

みなさんの住んでいるまちでは、体の不自由な友達が<sup>こま</sup>困らないように、駅や建物にどんな工夫がされていますか。

左下の写真はスロープとって、ゆかをゆるやかな坂にし、車いすの利用者が楽に移動できるように工夫されています。では、トイレの中はどうなっているのでしょうか。車いすに乗ったまま入れるように、入り口は広くつくられています。手すり、せもたれ、ぼたんの位置なども使いやすいように工夫されています。

このように、バリアフリーとは、体の不自由な人が<sup>さまさま</sup>様々な活動をするときに不便さを感じないように、そのバリアを取り除く<sup>のぞ</sup>ことをいいます。

しかし、すべての建物が、だれにとってもバリアフリーになっているわけではありません。ですが、みなさんの助けによりバリアをなくすこともできます。このように、<sup>こま</sup>困っている人に声をかける等のやさしい行動によるバリアフリーを「心のバリアフリー」といいます。



スロープになっている入り口



多様な利用者<sup>はいりよ</sup>に配慮したトイレ

### (4) ころとからだの成長のために～中央療育センターを訪ねて～

中原区井田には、いろいろな障害<sup>しょうがい</sup>のある人（子ども）たちが利用するたくさんの施設<sup>しせつ</sup>や運動場・体育館・プール等があります。

その中にある中央療育センターを訪ねてみました。ここでは、知的な発達におくれのある子どもたちや、身体に障害のある子どもたちが訓練を受けています。その日の健康状態を確かめながら、庭で走ったり、すべり台やブランコなどの遊具で身体をいっぱい使ったり、また、部屋で手遊び歌や工作、ボウリングをするなど、いろいろな遊びを通じて体の使い方を練習しています。

写真は、丸太形のブランコの上  
に立ってバランスを取りながら、  
手足でしっかり体を支える練習を  
しているところです。楽しく身体  
を動かすことで、運動に自信が持  
てたり、集中力が高まったりしま  
す。このほかにも、様々な器具を  
使いながら、自分に合った課題に  
取り組んでいます。



訓練用具を使って

障害のある子どもたちには、障害が重い子もいれば、軽い子もいます。どんな子どもたちも、周囲の支えの中、こころとからだを成長させ、夢や希望を持ちながら、いきいきと生活しています。

## (5) 住み慣れた地域での生活をめざして～わーくす大師を訪ねて～

川崎区にある「わーくす大師」を訪ねてみました。「わーくす」は、身体に障害のある人や知的な障害のある人が、自分らしく地域で生活するために、自宅などから通い、就職するための訓練や作業に取り組む施設です。

施設では、会社からたのまれた包装箱づくりなどの作業にはげんでいます。



包装箱づくり

包装箱はおみやげ屋さんやデ

パートで使われ、いろいろな人にとっても喜ばれています。

暑い中での立ち仕事や細かい作業など、どれも大変<sup>むずか</sup>難しい仕事です。それでも一人一人がその特性に合った工夫をしながら、就職<sup>しゅうしょく</sup>を目指して<sup>さま さま</sup>様々な技術を身につけようと一生けん命努力しています。

## 障害<sup>しょうがい</sup>があっても

わたしは体の関節がうまく動きません。うでがかたの高さまでしか上がらず、日常生活で不便な思いをすることがあります。高いところに手が届かないし、電話をするときも受話器を耳にあてるのに苦勞します。また、指も曲がった状態なので、キーボードを打つのも薬指しか使えません。



しかし、そのような障害<sup>しょうがい</sup>があっても、周囲の人たちの協力や、自分で工夫をすれば、みんなの中で働くことができます。高いところに手が届かなくても、困ったときは周りの人に助けてもらったり、台を用意したりすることで問題を解決できます。キーボードも、かな入力することで他の人と同じくらいの速さで文字を打つことができます。

確かに、障害<sup>しょうがい</sup>があると自分でできることに制限があります。でも、できる限りのことは自分でやりたいので、そのために努力をします。だからみなさんは障害<sup>しょうがい</sup>のある人がいても特別あつかいをしないでください。障害<sup>しょうがい</sup>のある人に対しても、障害<sup>しょうがい</sup>のない人に対しても「困<sup>こま</sup>っている人がいたから手助けをする」、そういう気持ちでいてくれるとうれしいです。

## (6) 障害<sup>しょうがい</sup>のある人とのコミュニケーション

### ■目の不自由な人とのコミュニケーション

わたしたちは生きていくために必要な情報の80%を目から得ているといわれています。目が不自由ということは、単にものが見えにく

い・見えないだけではなく、本や雑誌などの文章による情報、テレビや映画などの映像による情報も入ってきません。その代わりに、聴覚や触覚、嗅覚など、視覚以外の感覚をうまく使って生活しています。しかし、まちには危険なことがいっぱいです。プラットホームから落ちはしないか、顔にぶつかりそうなトラックのバックミラーはないか、前を見ないで携帯電話などを操作しながら歩いてくる人がぶつかってきたりはしないかなど、多くの不安をかかえています。

こんなとき、周りの人たちの支援は、大きな力、大きなはげみとなります。例えば「何かお手伝いをしましょうか」など、積極的に声をかけてみましょう。

## 【ガイドヘルプの仕方】

目の不自由な人が外出する際に、安全を確認しながら確実に目的地まで誘導することをガイドヘルプといいます。

### ①基本姿勢

ひと声かけてあなたのうでを貸してください。あなたのひじの少し上あたりを持ってもらいます。身長に差があり、持ってもらう位置が低いときは、かたを軽く持ってもらいましょう。あなたが半歩前を歩き、2人分のはば・足元・頭上に注意して歩きます。無言で引っ張ったり、後ろからおしたり、白杖や、白杖を持つ手をつかんだりすると、目の不自由な人はとてもこわい思いをします。

### ②階段ののぼり降り

階段や段差をのぼり降りする場合も基本姿勢の形と同じです。階段の始めと終わりでは止まって、「のぼります」「降ります」「終わりました」など声で知らせます。手すりを使うと安心できます。

### ③別れるときには

周囲の様子や向いている方向を説明します。その際は、「あっち」「こっち」「もう少し」という言い方ではなく、「右」「左」「あと5m」といった具体的な指示が必要です。

### 【点字とは?】

点字は、目の不自由な人が指先でさわって読む文字で、目で見える文字そのものの形を表すものではありません。

こんなものも、点字で表せます



階段の手すりに階数を点字で示しています。



エレベーターの階数を点字で示しています。

#### 点字の読み

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ		
ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ヲ	ン		
濁音	ガ	拗音	シャ	数符	1				

※点字は、縦3点、横2点の6点の組み合わせによる表音文字で、原則、母音と子音で構成されています。  
 ※オレンジ色の点字は母音と子音の組み合わせで構成される文字ではなく、その配置により文字を表します。

①④ 母音を表す部分 ①②④  
 ②⑤ 子音を表す部分 ③⑤⑥

「ふれあい」を点字で書いてみよう!

ふ	れ	あ	い
○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
○ ○	○ ○	○ ○	○ ○

※答えは裏表紙にあります。

## 【録音図書再生機】

点字のほかに、目の不自由な人が読書を楽しんだり、様々な調べものをしたりするために、たくさんの本が朗読され、視覚障害者情報文化センターなどで貸出しが行われています。録音図書（CD図書）などを再生する専用の機械もあります。



録音図書再生機

## ■耳の不自由な人とのコミュニケーション

耳が不自由な人と言っても、聞こえない人（ろう者）や聞こえにくい人（難聴者）、病気や騒音のひどい仕事などが原因で聞こえなくなった、または聞こえづらくなった人（中途失聴者）、加齢により聞き取りが難しくなる人（加齢による難聴）など様々です。

わたしたちは、様々な音に囲まれて生活しています。目覚まし時計の音で起きたり、お友達と声を出して会話したり、玄関のチャイムで家に帰ってきたことを家族に知らせたり、救急車のサイレンにおどろいたり、音を通じて得る情報はたくさんあります。耳が不自由な人は、そうした情報を得るために、視覚など、聴覚以外の感覚をうまく使って生活しています。

耳の不自由な人は外見では分かりにくく、周りにも気づかないことがしばしばです。そのため、耳の聞こえる人の多い社会の中で不便と感じたり、誤解を受けたりすることがあります。



## わたしたちが生活の中で主に音で情報を得ているもの

- 電話
- テレビ・ラジオの音
- 赤ちゃんの泣き声
- 玄関のチャイム
- 自転車のベルや車のクラクション
- 病院窓口での呼び出し
- 電車やホームでの緊急放送
- 災害時の放送

### 【視覚で情報を伝える機器】



チャイム音を光の情報に変える機器



災害時に光で誘導する機器

※その他、最近では電車の放送や病院の窓口の呼び出しなど、電光掲示板やテレビモニターで視覚的に情報を伝えている場所も増えてきています。

耳の不自由な人とのコミュニケーション方法はいろいろあります。耳が聞こえなくなった時期が生まれつきなのか、子どものときなのか、大人になってからか、また、そのときの言語環境などによって方法がちがってきます。

### 指文字



- ※濁音（「が」など）は、左から右へ引く。
- ※促音（小さい「っ」）は、手前に引く。
- ※長音（のばす「ー」）は、上から下へおろす。

耳の不自由な人は、手話や指文字、筆談、読話などの方法によって、コミュニケーションをとっていますが、これらの方法が苦手な人もいます。耳の不自由な人と話をするときは、その人に合った方法を選ぶことが大切です。

## 【手話】

手や顔の部位などを使って話をする言語です。手話は英語などのように、日本語とは全く別の文法を持っている言語で、十分なコミュニケーションや情報伝達が可能です。耳の不自由な人が必ずしも手話を使うとは限りませんが、手話を母語とする人たちもいます。

## 【筆談】

紙などに言いたいことを書いて、話をする方法です。短く簡潔かんけつに分かりやすく書くようにしましょう。

## 【読話】

話している人の口の動きから、言葉を読み取る方法です。対面で口の動きが分かるようにはっきりと話をしましょう。

## ほじょ犬

ほじょ犬（身体障害者補助犬しんたいしょうがいしゃ ほじょけん）は、目や耳や手足に障害のある方の生活をお手伝いする「盲導犬もうどうけん」・「聴導犬ちょうどうけん」・「介助犬かいじょけん」です。

- 「盲導犬もうどうけん」…目の見えない人、見えにくい人がまちなかを安全に歩けるようにサポートします。
- 「聴導犬ちょうどうけん」…音が聞こえない、聞こえにくい人に、生活の中の必要な音を知らせます。
- 「介助犬かいじょけん」…手や足に障害のある人の日常の生活動作しょうがいをサポートします。

ほじょ犬は特別な訓練を受け、<sup>にんてい</sup>認定を受けた犬で、<sup>しょうがい</sup>障害があり、ほじょ犬を使用している人（ユーザーといいます。）のパートナーであつて、ペットではありません。多くの人が利用する<sup>こうきょうしせつ</sup>公共施設、電車やバスなどの公共交通機関、<sup>しょうきょうしせつ</sup>商業施設、飲食店、病院、ホテルなどへ<sup>いっしょ</sup>一緒に入ることが<sup>みと</sup>認められています。

ほじょ犬は、お店の中で静かに待機するように訓練されています。また、ユーザーがほじょ犬を清潔に保ち、予防接種や<sup>けんしん</sup>検診を受けさせているので、とても安心です。

写真は<sup>もうどうけん</sup>盲導犬の<sup>かいだん</sup>歩行訓練（<sup>お</sup>階段のぼり降り）を行っている様子です。



<sup>ていきょう</sup>（提供：公益財団法人 <sup>にほんもうどうけんきょうかい</sup>日本盲導犬協会）

## （7）こころの病気ってどんなこと？

こころの病気は、日ごろのストレスや生活の不安など、いろいろな原因が重なり、こころのバランスがくずれることで引き起こされると考えられています。

こころの病気になると<sup>さまざま</sup>様々な「生活のしづらさ」が生まれます。「生活のしづらさ」は、病気だけではなく、家族や学校、友達などの<sup>かんきょう</sup>環境や個人の状態なども関わり合って引き起こされます。このような「生活のしづらさ」が続くことを<sup>しょうがい</sup>精神障害といいます。

具体的な「生活のしづらさ」とは、ぐっすりとねむれない、今まで楽しかったことが楽しく感じられない、やる気が起きない、つかれやすい、などのことをいいます。また、他の人には聞こえない声が聞こえる<sup>げんちょう</sup>幻聴や、他の人にはあり得ないと思えることを確信してしまう<sup>もう</sup>妄想など、<sup>さまざま</sup>様々な<sup>しょうじょう</sup>症状があります。

これらは他の人から見たら分かりにくく、<sup>しょうじょう</sup>症状や回復の様子も一人一人ちがいががあるので、その人にしか分からないつらさがあることもストレスや不安につながります。

このような「生活のしづらさ」がある<sup>じょうきょう</sup>状況の方々<sup>かたがた</sup>に対して、各区役所<sup>ちいき</sup>地域みまもり支援センター<sup>しえん</sup>や障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>相談支援センター<sup>そうだん</sup>、<sup>ちいき</sup>地域リハビリテーションセンター<sup>しえん</sup>では、<sup>さまざま</sup>様々な相談を受け付け、わたしたちの住む<sup>ちいき</sup>地域でその人らしい生活を送るための<sup>しえん</sup>支援を行っています。



## (8) これからの<sup>しょうがいしゃふくし</sup>障害者福祉の取組

川崎市では、<sup>しょうがい</sup>障害のある人もない人も、おたがいを<sup>そんちよう</sup>尊重しながら共に支え合う、自立と共生の<sup>ちいき</sup>地域社会を目指しています。

「共生社会」とは、一人一人が<sup>しょうがい</sup>障害のある人への理解を深め、<sup>しょうがい</sup>障害のある人もない人も共に社会の一員として<sup>ちいき</sup>地域の中で安心して暮らしていけるような社会のことで、そうした社会を目指していこうとする考え方を「ノーマライゼーション」といいます。

川崎市では、<sup>しょうがい</sup>障害のある人が<sup>こま</sup>困りごとを気軽に相談できるようにすること、生活するために必要な<sup>さまざま</sup>様々なサービスや、<sup>いりよう</sup>医療・リハビリテーションを受けられるようにすること、働きやすくすることのほか、<sup>しょうがい</sup>障害のある人が安心して暮らせる住まいの場を確保することや、<sup>しょうがい</sup>障害のある人に対する社会の<sup>のぞ</sup>バリアを取り除くことなど、ノーマライゼーションの実現に向けた<sup>さまざま</sup>様々な取組を進めています。